



株式会社アルペン

スポーツの製造・小売り企業がライセンス管理を一元化 デザイン作業の効率化と、一層の品質向上も実現

日本のスポーツ用品小売業の草分けとしても知られる株式会社アルペンは、製造小売（SPA）にいち早く取り組んできた企業としての一面も備えている。1990年代からIllustratorやPhotoshopによる自社ブランド製品のデザイン内製化を行ってきた同社は、煩雑化したライセンス管理の一元化を目的として、Creative Cloudへの移行を決断。移行はデザイン作業の効率化や一層の品質向上にもつながっている。

Alpen Group

スポーツをもっと身近に

<https://www.alpen-group.jp/>

所在地：
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目9番40号

概要

各種スポーツ用品の販売、製造販売を行う
スポーツ関連企業

事業内容

- ・スキー用品及びゴルフ・テニス・マリン・野球用品等各種スポーツ用品、レジャー用品の商品開発、販売
- ・スキー場・ゴルフ場・フィットネスクラブの経営

課題

- ・ライセンス管理を効率化したい

ソリューション

Creative Cloud グループ版

デスクトップアプリ

- ・ Adobe Illustrator CC
- ・ Adobe Photoshop CC

サービス

- ・ Typekit
- ・ Adobe Creative Cloud Libraries

モバイルアプリ

- ・ Adobe Capture CC



導入メリット

ライセンス管理の省力化



管理画面によるAdobe製品ライセンスの一元管理を実現

デザイン作業時間が1/5以下に



パベットワークなどの新機能やライブラリの活用で、デザイン作業時間が短縮

デザインの表現力が広がった



Typekitの活用がデザインの幅を広げることに貢献

3D表現も可能に



3Dプレゼンテーションの基盤が構築できた

■「スポーツを身近に」をテーマに多角的なビジネスを展開

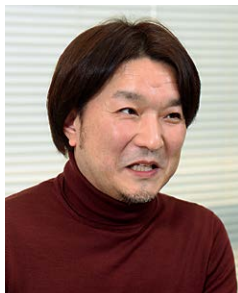
株式会社アルペンは、「スポーツをもっと身近に」をテーマとして多角的に事業を展開するスポーツ関連企業だ。「アルペン」や大型ゴルフ専門店「ゴルフ5」、大型スポーツ用品専門店「スポーツデポ」などのチェーンストアを全国展開するだけでなく、独自に研究・開発した製品をオリジナルブランドで販売する製造小売（SPA）に1970年代から取り組んできたという一面も備えている。その品質は、自社開発のプロ用スキー板を使用した選手がソチ五輪で金メダルを獲得するなど、アスリートからも高く評価されている。

2017年12月現在、同社が全国に展開する店舗網は約420店舗。そのほかゴルフ場、スキー場、フィットネスジムなどのスポーツ施設を運営することも同社の特長の一つ。スポーツ用品の製造から販売、スポーツ施設運営も手がける日本のスポーツ小売業のバイオニアとして、スポーツをエンジョイするすべての人にとって身近で頼れる存在であり続けることを目指している。

■ライセンス管理の効率化のためCreative Cloudに移行

同社には、数々の栄光を積み重ねた歴史あるブランド「Hart」、アスリートブランドの「TIGORA」など、11のオリジナルブランドがある。ウィンタースポーツからマリンスポーツに至る多様な商品の企画・デザインは、すべて社内で行っている。ユーザーとの距離の近さに基づく真のユーザーニーズに立脚した商品開発は、同社の強みになっている。

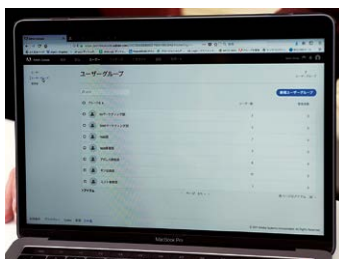
同社デザイン部門は1990年代にアパレル専用CADソフトによるデザインから、IllustratorとPhotoshopによるデザインに移行。10年ほど前に一人一台体制を確立し、現在に至っているが、デザイン部門のハード・ソフト購入は部署ごとに予算を組んで行ってきた関係上、バージョンが揃わない状態が続いていた。情報システム部 本社支援グループの峠 秀胤氏はその理由をこう説明する。



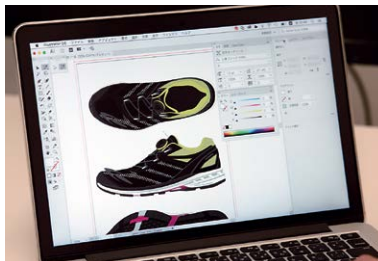
情報システム部 本社支援グループ
峠 秀胤氏



アウトドア商品部 ウィンターグループ
森 祐樹氏



管理画面で部署別にライセンスを管理することで、誰がどのライセンスを使っているのかが一目で分かるようになった



2D と 3D のリアルな合成が簡単にできるグラフィックデザイナー向けの 3D ツール、Dimension CC にも注目している。

「デザイナーが必要とするハードのスペックは業務に応じて異なります。作業の効率性を確保するという観点から、ハード、ソフト共に必要に応じて購入してもらうことが合理的と考えたことがその理由です」

それに伴い、ソフトウェアのライセンス管理は非常に煩雑化していた。こうした状況の改善を図るため、同社は Creative Cloud への移行を進めることになった。

■管理画面によるライセンス一元管理を実現

Creative Cloud への移行の第一の効果は、課題であったライセンス管理の一元化が実現したことだ。管理画面で部署別にライセンスを管理することで、誰がどのライセンスを使っているのかが一目で分かるようになったことを峠氏は高く評価する。

「さらに各部署が数本単位で購入していた以前と違い、一定数がまとまることでボリュームディスカウントが利用できるようになったこともメリットの一つです。当社の Adobe CC ユーザーは 20 名弱ですが、それ以外にも 50 名近くの Photoshop、Illustrator のユーザーがいます。今後、ハード入れ替えのタイミングで、Creative Cloud への移行を進める予定です」(峠氏)

■Creative Cloud がデザイン作業効率化に貢献

常に最新機能が使える Creative Cloud 移行のメリットは、管理の容易さだけではない。主にギア商品の企画・デザインを担当するアウトドア商品部 ウィンターグループの森 祐樹氏はこう語る。

「Creative Cloud への移行は、新機能によるデザイン作業の効率化にもつながっています。例えば、Photoshop の『コンテンツに応じた塗りつぶし機能』を活用することで、かなり効率的に作業を行えるようになりました。Illustrator では、マウス操作などでアートワークの自然な変形が行える『パペットワープ』に注目しています。従来はアートワークの修正には、パスを一つ一つ調整していくほかありませんでしたが、パペットワープならそれが即座に行えるのでとても効率的に作業が行えます」

多様なアプリケーションで作成したデザインアセットを一元管理できる Creative Cloud ライブラリも森氏が高く評価する機能の一つだ。

「例えば一つのアートワークを複数のデザインに展開する場合、これまでは展開後のアートワーク修正は一つ一つ行うほかありませんでした。しかし Creative Cloud ライブラリに登録したアートワークの場合、そこで修正を行うとすべての展開先にそれが反映されるため楽ですね。修正作業時間は 1/5 以下に短縮されました」

■デザインの幅を広げたクラウド経由のサービス

Creative Cloud は作業の効率化だけでなく、デザイナーの表現力を広げることに貢献している。

「クラウドで多彩なフォントを提供する Typekit はその一例です。デザインの印象はフォント次第で大きく変わります。私がレディース製品のデザインを担当すると硬くなりがちだったこともあり、フォントの選択肢が広がったことはとても助かっていますね」(森氏)

またスマホで撮影した写真からカラーテーマやパターンがスムーズに作成できる Capture CC は、導入後即座にデザイン部門のスタッフ全員が活用を開始しているという。森氏が現在、注目しているのは 2D と 3D のリアルな合成が簡単にできるグラフィックデザイナー向けの 3D ツール、Dimension CC だ。

「自部署はゴルフボールやバスケットボールのデザインも担当していますが、Illustrator の表現ではどうしても平面的になります。しかし 3D で表現できれば、デザインに関する知識がない人にも分かりやすくイメージが伝えられる上、我々も立体物の仕上がりがよりイメージしやすくなります。そのため現在、Dimension CC が利用できるコンプリート版への移行を検討しているところです」

Creative Cloud が備える多彩な機能の活用促進は、現在の課題の一つだ。

「当社では簡単な動画制作なども社内で行っていますが、その編集はこれまでハードに付随する編集ソフトで行うことが一般的でした。当社ではすでに一部でコンプリート版を導入していますので、動画編集を機能的にも優れている Creative Cloud の Premiere Pro CC や After Effects CC で行うよう、啓発に努めている段階です」(峠氏)

Adobe Creative Cloud グループ版に関する詳細

<http://www.adobe.com/go/cct>



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Illustrator, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated, in the United States and/or other countries.

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe PDF logo, and Reader are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.
© 2018 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.